

二大政党制に関するゲーム理論的考察

1220576 山中一真

指導教員 肥前洋一

研究背景

本論文は、「二大政党制は安定的な政党システムである」、「二大政党制がもたらす政策的帰結として、政策の収斂がもたらされる」という2つの政治学における伝統的な議論をゲーム理論モデルを構築して考察する。

研究目的

目的は、二大政党制は第三政党の参入に対して安定的な政党システムであることを明らかにすること（デュヴェルジェの法則の視点）、二大政党の政策が完全には重ならないことを第三政党の参入を用いて説明すること（中位投票者定理の視点）である。

分析方法

ゲーム理論モデルを構築し、均衡において各政党がどのような公約を表明するのかを分析する。3つの政党が順番に一次元の政策空間上で公約を決定する展開型ゲームである。

分析結果

均衡において、二大政党が中位政策からある程度離れた政策を表明し、第三政党が中位政策を表明する、第三政党の得票シェアは二大政党のそれぞれの得票シェアを下回るという結果を得た。

結論

構築したゲーム理論モデルから、二大政党制の安定性と二大政党の政策が完全には重ならないことについて数理的な説明を与えることができた。